

令和2年度  
第2回 都城市都市計画審議会 議事録

1. 開催日 令和3年2月10日(水)
2. 開会時刻 午後10時00分
3. 閉会時刻 午後11時30分
4. 開催場所 中央公民館 視聴覚室
5. 提出議案 ①都城市都市計画マスタープラン中間見直し(案)について
  
6. 出席委員(10名)
  
8. 事務局(都市計画課)
  
9. 審議の結果  
結果：議案①について「承認」

## ■委員

パブリックコメントについて否定的な意見はなかったということだが、具体的にはどのような意見が出ていたのか、それに対して都市計画課はどう回答しているのか。特に「空き地・空き家」についての意見が聞きたい。

## ■事務局

「空き家、空き店舗の活用」についてのご意見は、例えば「災害のもとになるので、拠点形成において難しい問題。住んでもらう方法を考えることが大切だと考えている。借用という方法など、人が入ってくる事のメリットを考えた方が豊かになる。」といった意見であり、それに対して、危険な空き家については解体除却を行い、その他の利用可能な空き家は有効活用するためにリノベーションを行うなど検討中。空き店舗については、中心市街地活性化の観点からリノベーションに対する補助を市で行っており、今後、関係部局と連携して取り組んでいくというように回答している。

## ■委員

パブコメの回答も公表されるのか。先日ホームページを拝見したが掲載されていなかった。

## ■事務局

庁内手続きを進めた後で意見、回答を公表する予定で、2/17 から公表予定で動いている。

## ■委員

住民説明会の参加が3名。17万人もいるなかでどうしてこんなに少ないのか。若い世代の方々、小中高校生に訴えかけていくことが大事なのではないか。

## ■事務局

説明会については、当初は地域を回って開催する予定であったが、コロナ禍であったので1ヶ所の会場で3日間のみ開催とした。これまでの経験からも参加者は少なかったため、今後は工夫をしていきたい。また、若い方の声を聞くという姿勢は重要であると考えている。都市マスの見直しだけでなく、まちづくりに関しては、南九州大学や都城高専を対象に説明会を開催している。資料冒頭に記載している「まちづくりの話」など分かりやすい部分について、将来を担う若い方々に対して説明をしていきたいと考えている。

また、今回の見直しの中では、高校生に対してアンケートを実施するなどしている。

## ■委員

学生が参加出来る活動を今後も継続してもらいたい。

#### ■委員

次の世代の若者にどういふまちを作っていくのかを示していくことが大事。まちづくりについて市民が自分の事としてとらえられるような取り組みをして頂きたい。ソフトの面もとても重要。学校を卒業して市外にでて、都城の素晴らしさを語ってもらえるような取り組みも必要と考える。

#### ■事務局

計画を策定するだけでなくどのように周知していくかが重要。学生への説明会などもそうだが、今後市民に向けての周知活動にも力を入れていきたい。

#### ■委員

今回の見直しがどのような視点を重視して変更されたのかという部分についてももう少し説明頂きたい。

#### ■事務局

当初計画策定時から人口減少は続いていたがさらに減少が進んでいることから「コンパクトなまちづくり」を重点戦略として設定した。また、都城志布志道路整備にあわせた土地利用等の誘導についても重点戦略としている。

総合計画の見直し、立地適正化計画の策定など、当初計画策定後の取組みについても今回反映している。

#### ■委員

市が考えている活性化が具体的に示されないと、パブリックコメントでも意見を出しにくい。都市マスの中で、課題は整理されていると思うが、その対応策との間にギャップがあるように感じる。今後は指標を設定するなどに対応していくことが重要だと考える。

#### ■事務局

都市計画マスタープランは基本的な方針となるので、具体的な部分については実施計画を策定する時点で土地利用誘導方針などで検討しながら 10 年後のまちづくりを実現していきたい。

#### ■委員

都城市の公式LINEを利用して一般のまちづくりに関心が薄い方にもアプローチできないだろうか。

#### ■事務局

ホームページには掲載していたが、LINEは未検討だったので、今後検討していきたい。

■委員

P. 29 の人口推計だが、社人研の推計も甘いところがある。10 年前、人口が減ることは認識していたが、行政としてもあまり強く出せなかったところがあったと思う。

人口推計はもっと厳しく見たほうがよいのではないか。

■事務局

社人研に比べて市独自の推計は約 2 万人の差がある。庁内調整の中で市独自の推計を出していくことになったので今回両方掲載している。

■委員

独自推計は希望の数値だと思うが、現実はいかに高い可能性が高いだろうと思う。かなり厳しく見ていかないといけないと考える。

■委員

人口推計については社人研の 11.5 万人よりも減少するものと見込んでいる。今後 20 年 30 年先のことまで見据えてまちづくりは考えていかないといけないので、次の世代に希望を持たせることも考えないといけない。その方策を考えることも重要だと考える。

■会長

これ以上意見等ないようなので、採決を行う。

議案第 1 号 都城市都市計画マスタープラン中間見直し案について原案どおり承認される方は挙手をお願いします。

(全員挙手で承認)

以上